

氏名	戎谷 力
学位の種類	博士 (医学)
学位記番号	甲第346号
学位授与年月日	平成23年3月22日
審査委員	主査 教授 田中 恒夫 副査 教授 富岡 治明 副査 臨床教授 芦沢 信雄

論文審査の結果の要旨

肝細胞癌治療において肝動注化学塞栓療法(Transcatheter arterial chemoembolization (TACE))と肝動脈化学療法(Transcatheter arterial infusion therapy (TAI))が近年増えている。TACE/TAI後の感染予防目的での抗菌薬投与は経験的に行われており、標準化されていない。そこで注射薬cefazolin (CEZ)と内服薬levofloxacin (LVFX)の比較試験をprospectiveに行った。方法：2007年10月から2009年3月までの肝癌患者129例を封筒法にて無作為にCEZ群(2g/日)とLVFX群(300mg/日)の2群に割り振り、各々5日間投与した。感染性合併症、有害事象、白血球数(WBC)、C-reactive protein (CRP)、抗菌薬投与日数、および入院日数を検討した。結果：CEZ群(n=64) vs LVFX群(n=65)で比較したところ、WBCとCRPの治療後の推移に2群間で差はなかった。さらに術後の感染者数、有害事象発生数、抗菌薬投与日数、入院日数にも2群間で統計学的に有意な差はみられなかった。結論：肝細胞癌に対するTACE/TAI治療の際の予防的抗菌薬投与の効果は、LVFXはCEZに劣っていないことが明らかとなった。医療コストや患者負担の少ない経口薬LVFXは、TACE/TAI後の予防的投与に用いる抗菌薬として有用である。